

# FPU NEWS

福井県立大学広報

<http://www.fpu.ac.jp/index.html>

■発行／公立大学法人 福井県立大学  
2009年6月5日発行  
福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1  
TEL.0776-61-6000 FAX.0776-61-6011

No.67  
2009



## 小さくてもきらりと光る存在、輝くオンリーワンに

「今日の日を祝福するように、外には桜が咲き誇り、木々の芽は燃え出し、新しい時を告げています」

祖田学長の式辞にもあるように、桜咲く4月7日(火)、福井県立大学入学式が行われました。新入生は本年度創設された海洋生物資源学部の51名を含む450名。海洋生物資源学部の小原和之さんと大学院看護福祉学研究科の片岡恵理さんが代表して誓いの言葉を述べました。



平成21年度 入学式



若者らしく行動し、やがて大きく育て

平成20年度 学位授与式



407名に学位授与。  
福井県立大学からの巣立ち

## CONTENTS

海洋生物資源学部誕生

2

県大トピックス

4

Fレックス本格始動／世界初 コムギの開花の仕組み解明

5

新任教員紹介

6

大学連携リーグ 連携企画講座／客員教授 特別講座開催

7

保健管理センターの紹介／サークル紹介

8

紙魚の独り言・本学関係者の出版の紹介・お知らせ

# 海洋生物資源学部誕生



海洋生物資源学部  
学部長

青海 忠久

## 新たに海洋生物資源学部として歴史を刻む 学部開設の経緯

本年4月1日に、福井県立大学生物資源学部の二学科が改組され、それぞれ生物資源学科が生物資源学部に、海洋生物資源学科が海洋生物資源学部に生まれ変わりました。



平成4年に本学が開学されて以来、両学科は、それぞれの学問領域ならびに地域特性をふまえて、福井、小浜の両キャンパスに別置されました。小浜キャンパスに開設された海洋生物資源学科では、海洋環境ならびに海洋生物資源に係る教育・研究が推進されてきました。

本学開設当時から指摘されていたように、一学科構成では学生に対する機会均等な教育条件の提供や大学運営に関する教職員の責務の分担の仕方など、キャンパス運営の多くの側面に困難を伴ってきました。時機を見て学部を開設するというキャンパス開設以来の夢の実現に向けて学内外で随分と努力がはらわれてきました。今回の学部開設は西川知事の選挙マニフェストに取り上げられたことに端を発し、県民の支持、県議会の理解があって実現したものです。なかでも、学部開設実現に向けて根気強く県へ要望いただいた地域の自治体や各種団体ならびに御支援いただいた多くの方々には最大の感謝を申し上げたいと思います。

## 学部開設に伴う責務と意義

今回の学部開設に伴って求められる責務としては、以下のことが挙げられます。

1. 持続的で公正な日本海の海洋生物資源の維持と利用の仕組みを確立していくこと。
2. 水産物の安心安全を確立していくこと。
3. 地域と大学が新たな絆をうち立てていくこと。

海洋生物資源学部は、日本海側唯一の水産・海洋系の

学部であることから、日本海の生物生産、環境保全ならびに資源の高度利用にかかる問題を解決するため、環日本海諸国の大連携・交流を強化し、有能な人材の育成と独創的な研究を展開する必要があります。文化・経済の都市集中を是正し、地方復権が求められているという最近の日本の現状を見るにつけ、小浜キャンパスの存在意義はますます大きくなると思います。

## 学部開設により、教育・研究面で 何が変わることか？

まず、学部は大学運営の基本単位であるために、小浜キャンパスの自主性・独立性が高まります。今回は1学科1学部での学部開設ですが、学生定員を従来の40名から50名に増員し、新たな研究教育分野を拡充するために教員も3名増員しました。増強した教員は、食の安心安全、海洋生物資源情報の社会学的な解析、陸域と海洋との相互関係をふまえた総合的な環境の解析を進めることになります。これまででは、生物資源学部の先生方に多くの部分を依存していた1年次生に対する専門基礎教育を海洋の教員が受け持つことになりました。このような新しい体制の下で、地域との関係を強化し、より質の高い地域貢献を目指し、学生も地域の中で育てて頂きながら人間力を向上させたいと考えています。

## 小浜キャンパスが地域に対して果たしたい 役割とは？

今日、大学の地域貢献が強く求められています。特に県立大学では、そのような傾向が強いかと思います。しかし、地域貢献というと、ついつい産業界の要請に応じた研究や技術開発のように受け止められがちですが、もう少し異なった貢献の仕方を私たちはイメージしています。

大学は真理を探求する場であることから、将来を見据えた近視眼的ではない社会への貢献を行うことが必要と



考えます。近年注目されているソーシャル・キャピタルと言う言葉があります。ソーシャル・キャピタルは日本語では社会関係資本と訳され、人々の協調行動が活性化することにより社会の効率性を高めることができるという考え方のもとで、社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織の重要性を説く概念とされています。

今回の学部開設に伴い、地域の様々な方々や団体と大学とが相互の信頼に基づくネットワークを構築することで、相互の批判精神を保ちながら地域の資産や活力を活かすための最良の方向性を探していくのではないかと考えます。

### 学部開設記念行事の数々



去る4月18日午後1時より200名以上の参加者を得て「海からの贈り物を利用した地域づくり」と題する学部開設記念シンポジウムが開催されました。

基調講演として、本学の祖田 修学長には、地域作りの大学の果たす役割をドイツと日本の地域作りの実例から、地域とは何か？そしてその中で大学の果たす多面的な役割について考え、本学部がこの地域で果たすべき役割について提言を頂きました。本学教員のOBでもある東京大学海洋研究所長の西田 瞳先生には、ますます危機的状況を迎える地球環境の下での海洋生物学研究の今日的意義をいくつかの先駆的研究成果の実例から示して頂き、本学部が今後果たしていくべき立脚点を明らかにして頂きました。

続いて開かれたパネルディスカッションでは、6人のパネラーにそれぞれに独自の立場からの大学の果たすべき役割についての期待を述べて頂きました。このパネルディスカッションでも、今回の学部開設が多方面の方々の熱い想いを背に受けて実現したものであり、寄せられる期待も多方面に渡っていることを再確認しました。私たちが、地域の方々と共に、この豊かな自然や文化資産を活かし、地域作りにどのように貢献していくかは、地域の方々

との相互の信頼と価値観の共有の上に、私たちがどれだけ確かな見識を持ち、将来を見据えながら地域に提言し行動していくかにかかっていると考えています。

この記念シンポジウム以外にも、秋には市民の方々に参加して頂けるいくつかの記念行事を予定しています。このような行事を通じて、本学部化の意義と責務をさらに明確にしていきたいと考えています。

### 海と湖を舞台とするやる気触発プログラムについて

昨年度より文部科学省の大学教育改革推進事業（G P）として採択された「海と湖を舞台とするやる気触発プログラム」を進めています。これは並行して進めているJABEE教育プログラムと対をなすものと考えています。JABEE教育プログラムは卒業する学生のレベルの最低保障であります。

一方GPは意識の高い学生を育てて、人間力を高めようとするものです。そのためには地域との関わ



りがキーポイントとなっており、その中の現実感のある実験が学生の感性を磨き、勉学に対する興味と持続力を育て、人とのコミュニケーション能力や問題解決能力を引き出そうとするものです。今回の学部開設と時期を同じくして取り組んでいるこれらのプログラムは、学部開設の意義をさらに効果的にすると信じています。

### 学部運営に当たっての抱負

正直言って、学生にとっても教職員にとっても、あるいは広く人類にとっても現在は様々な意味での試練の時であると思います。日本の社会は、急速に少子高齢化時代を迎えています。経済は明るい未来が見えづらいですし、地球の環境も悲鳴を上げています。このようなときに、新たに開設した学部の学部長職の大任を任されるのは身の引き締まる思いです。将来の方向性を見失わないよう



にしながら、それぞれがいきいきと毎日が送れ、成績が上がっていくようにしたいと思っています。

## Fレックス本格始動

Fレックス（福井県大学間連携プロジェクト）は平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業に採択されました。福井県内の高等教育機関が連携し、それぞれの組織が持つ学習資源に相互にアクセスできる環境をつくるプロジェクトです。現在、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学、敦賀短期大学、福井工業高等専門学校の6校が参加しています。Fレックスのキーワードは学習コミュニティです。これは福井県内の高等教育機関における教職員・学生の人のネットワークをつなげていくことを通して、多様な学びの空間を創造しようというものです。Fレックスでは、教員の教授能力を高めるための「FDチーム」、教員と学生の間で多様な学びの空間を模索する「学習チーム」、地域住民の参加も得ながら学習スペースを創造する「地域チーム」、学生による企画と活動を行う「学生チーム」、Fレックスで利用するLMS(授業支援)・SNS(コミュニティ支援)・eポートフォリオ(学習者支援)の各ICTシステムの設計・実装・運用を行う「基盤チーム」、の5つのチームが活動をして

学術教養センター 教授 山川 修

います。Fレックスには参加組織の構成員は自由にアクセスできます。地域にお住まいの方も参加申請をすれば利用できるようになります。Fレックスが創る学びの空間は、参加することにより初めてその果実が享受できます。あなたも是非参加してみてください。

⇒ <http://f-leccs.jp/>



## 村井教授の研究グループが、コムギの開花期を決定する遺伝子のしくみを解明しました！

生物資源学部 教授 村井 耕二



mvp変異体（左）と正常植物

私たちが世界に先駆けて特定に成功した *WAPI* 遺伝子（現在、*VRN1* 遺伝子と改名され、世界的に認められている）は、コムギの開花時期を決定する重要な遺伝子です。しかし、この *VRN1* 遺伝子がどのようなしくみでコムギの開花時期を決定するのかは不明であり、それを解明することは世界的な競争になっていました。今回私たちは、（独）農業生物資源研究所と（独）理化学研究所との共同研究

によって、*WAPI* 遺伝子が花

芽形成に必要なフロリゲン（花成ホルモン）遺伝子（*WFT*）の働きを誘導し、コムギを開花へと導くことを、世界で初めて明らかにしました。

この成果は、植物学の分野で世界最高レベルの学術専門誌（The Plant Journal）に掲載されました。（Shimada et al. 2009, The Plant Journal 58: 668-681）

本研究では、イオンビーム照射により *WAPI* 遺伝子を欠失させた

突然変異体 *mvp* の解析が鍵となりました。*mvp* 変異体は、完全な *WFT* 遺伝子を持っているにも関わらず、どのような栽培条件で栽培しても *WFT* 遺伝子の発現が見られず、花芽が形成されませんでした。このことは、*WAPI* 遺伝子の働きにより、*WFT* 遺伝子が活性化されることを示しています。

私たちは *WAPI* 遺伝子の知見を用いて、すでに福井県の栽培に適した早生コムギ系統「福井県大3号」の育成に成功しており、昨年度から福井市（旧清水町）の一般圃場で栽培試験を行っています。「福井県大3号」は、オオムギ並みの早生で、かつ収量性に優れ、フランスパンに適していること（レ・プレジユール評価）が、また、ラーメンに適していること（（株）タクエツ（喜多方ラーメン）評価）が、明らかになっており、平成23年度に品種登録完了予定です。

今後も、福井県の栽培に適した早生、耐寒、多収性のコムギ品種育成がさらに進み、コムギの地産地消に貢献できればと考えています。



福井市清水地区で試験栽培中の「福井県大3号」

# 新任教員紹介

## 01 生物資源学部



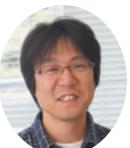
助教  
植松 宏平

専門科目 電気化学

担当科目 化学実験、生物物理化学実験

抱負 熟考することで得られる学問の深さ・面白みを伝えていきたいと考えております。学術的・応用的にインパクトのある研究を数多く発表したいと考えております。

## 02 海洋生物資源学部



准教授  
松川 雅仁

専門科目 水産加工学、水産食品生化学

担当科目 化学実験、食品工学、資源利用学実習

抱負 東日本から西へ、民間から法人へ、研究・開発から研究・教育へと全てが初体験です。人間様の都合で定説化しつつある水産加工技術の問題を新しい視点からロジカルに解いてく所存です。宜しくお願い申し上げます。



助教  
杉本 亮

専門科目 生物地球化学、沿岸海洋学

担当科目 資源育成学実習

抱負 昔から森が荒廃すると海がダメになるとと言われてきましたが、森と海のつながりの科学はまだ未開の分野です。山と海に囲まれた小浜を舞台に、森と海の科学的なつながりを明らかにしていきたいと考えています。

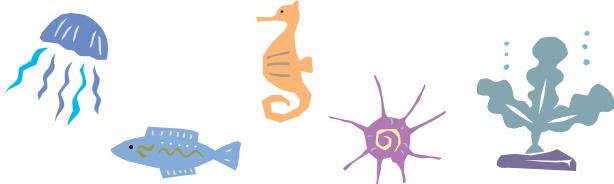


助教  
細井 公富

専門科目 水産化学

担当科目 化学実験・食品化学実験・資源利用学実習

抱負 海洋生物の生理機能と水産食品の機能性の関係を解き明かしたいと考えています。小浜湾を望むキャンパスで、小浜湾に生息する生き物を対象に研究を進めていきます。



## 04 学術教養センター



教授  
大武 博

専門科目 応用言語学・コーパス言語学

担当科目 英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語特論

抱負 大量の英文(コーパス)を資料として、英語の使用実態の分析・研究をしています。長年英語を学び続けていますが、まだに新しい発見に胸躍る瞬間があります。この喜びを多くの人と共有したいものです。

## 03 看護福祉学部



講師  
鈴木 隆史

専門科目 地域看護学

担当科目 地域看護学活動論ⅠⅡ、地域看護学実習ⅠⅡ、看護研究

抱負 地域看護学は、掘り進めれば掘り進める程、とても楽しい教科です。私は、学生への講義・実習指導などで地域看護学の楽しさを伝えていけるよう尽力します。よろしくお願ひいたします。



講師  
三上 勇氣

専門科目 精神看護学

担当科目 精神臨床看護学、精神臨床看護学実習、精神看護学研究

抱負 愛知県立大学より赴任いたしました。福井の自然あふれる豊かな環境に故郷の北海道を思い出し、癒されております。学習は動機付けが大切だと考えます。ちょっとした興味や関心から学習意欲を引き出し、楽しく学べる環境づくりを心がけ、精神看護に少しでも興味を持って頂けるよう、努めたいと思います。どうぞ宜しくお願ひいたします。



助手  
坂部 敬子

専門科目 地域看護学

担当科目 地域看護学実習Ⅰ・Ⅱ

抱負 人が住み慣れた地域で健康で幸せに暮らすために必要な活動を考える過程やその活動は、楽しく、やりがいがあることであると学生に伝えると同時に、今後の経験からいろいろなことを学んでいきたいと思います。



助手  
前田 恵津子

専門科目 地域看護学

担当科目 地域看護学実習Ⅰ・Ⅱ

抱負 住み慣れた場所で最期まで安心して過ごせる地域を築いていくために何が必要なのか、その中で看護の果たすべき役割とは何かを学生とともに学んでゆきたいと思います。よろしくお願ひ致します。



助手  
村中 克枝

専門科目 精神臨床看護学

担当科目 精神臨床看護学実習

抱負 学生と共に学んでいく中で、精神看護の魅力や楽しさを少しでもお伝えしていくたいなと思っています。また、自分の看護観や知識を深めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



講師  
徳野 淳子

専門科目 情報科学、知能情報処理学

担当科目 情報基礎演習、情報科学、情報処理A、導入ゼミ、教養ゼミ

抱負 専門分野や年齢、身体的ハンデ問わず、全ての人にとってコンピュータやインターネットなどの情報技術がより親しみ易いものになるように、教育・研究の両面から努力していきたいと思います。

# 大学連携リーグ 連携企画講座始まります。

平成19年度から進められてきた「大学連携リーグ」。県内8つの高等教育機関が、相互に知識や技術の交流を深め、研究レベルの向上や人材育成を図るため取り組んできました。

今年度からはその活動の一環として「連携企画講座」を開催。AOSSAをサテライトキャンパスとし、各校がその特色を生かして講座を開講します。その中の県大講座をPICK UPしてご紹介します。

## ◎講座PICK UP



### 地域の農業と食を考える <全5回>

学長 祖田 修

農業・農村の視点から、都市や工業、社会の安全安心、自然や環境、教育、現代文明の行方等について考え、同時に農業の方向、福井県の将来について展望します。

日時

6月24日(水)・7月22日(水)・8月26日(水)

9月23日(水)・10月28日(水)

18時30分～20時

### 世界同時不況と地域経済 <全9回>

第1回、第9回担当 経済学部 教授 岡 敏弘

世界同時不況のメカニズム、性格、原因、日本経済や地域経済への影響、企業経営への影響、公共料金の上昇の背景等について、理論と実証の両面から総合的に分析します。

日時

6月18日(木)・6月25日(木)・7月1日(水)・7月9日(木)・7月14日(火)・

7月23日(木)・7月27日(月)・7月31日(金)・8月4日(火)

いずれも19時～20時30分

### 生物多様性を考える ～水圏生態系から生物多様性を理解しよう～

### 『なぜか健康長寿』を考える <全4回>

第1回担当 学術教養センター 教授 杉村 和彦

全国有数の健康長寿県である福井県。その要因を「健康長寿と地域性」「しゃかいの健康」「こころの健康」「からだの健康」の4回に分けて解説します。



日時

7月4日(土)・7月11日(土)・7月18日(土)・7月25日(土)

いずれも19時～21時



### 生物多様性を考える

～水圏生態系から生物多様性を理解しよう～

海洋生物資源学部 教授 富永 修

最近、生物多様性という言葉をよく耳にします。本講座では、水圏生態系に起こっている出来事を例として、多様性が脅かされている現状を理解し、なぜ生物多様性が維持されないといけないかと一緒に考えていきたいと思います。

日時

7月25日(土)

13時～16時

## 客員教授 特別講座開催

平成21年4月23日(木)

### 教養特別講義（一匠と現代－環境の世紀に生きる匠たち）

旧今立町出身の手漉き和紙の人間国宝 岩野市兵衛客員教授の特別講義が開催されました。越前奉書の紙漉きへの思い、手作業での工程、自然素材に関する様々なこだわりなど、自らが漉かれた越前奉書を手に2時間に渡り講演されました。

「ごまかすな。手を抜くな」「長い繊維のものは長いままに、自然のものは自然のままに」

岩野氏の語りの一つ一つには、物事に真正面から関わってきた人のもつ力があり、学生ら約100名が聞き入りました。

奈良時代より1500年の歴史を持つ越前和紙。現在、日本の和紙生産の半分は福井県です。岩野氏は「日本古来からの手漉きの技術は手間も時間もかかるが、次代に繋げ、守っていきたい。」と話されました。

「教養特別講義－匠と現代－」は“モノとヒトが等身大で関わる



世界の可能性を匠の語りから学ぶ”をテーマに全15回を予定しています。次回詳細などは福井県立大学教育推進課 電話61-6000(内線1023)までお願いします。

岩野市兵衛客員教授  
親子2代にわたる人間国宝である。

平成20年12月15日(月)

### 地域経済研究フォーラム

平成20年度第5回地域経済研究フォーラムが、客員教授中村剛治郎氏（横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 教授）を講師に迎え開催されました。企業関係者や学生約90名が参加。中村氏は「世界経済の時代変化のもとで、これから日本経済と地域経済を展望する」のテーマのもと、世界経済の構造変化や日本経済の新たな発展軌道の構築が、地域経済のあり方をどのように規定していくかについて話されました。



平成21年1月20日(火)

### 特別企画講座

平成20年度経済学部特別企画講座として、客員教授新町光示（前（株）ジャルパック代表取締役会長）の講義が開催されました。学生や一般聴講者約100名が参加。「航空産業とグローバル化」をテーマに、観光産業の重要性、国の産業振興や地方活性化、福井ブランドの確立と観光について講義されました。



新町氏の次回講座は次の通りです。

●日時：7月17日(金)14時40分～16時10分(事前申込不要)

●平成21年度前期経済学部特別企画講座第8回

●テーマ：「内需市場開拓への取組み強化

—農・水・林業、エネルギー、環境、観光等—」

# 保健管理センターを開設しました

心身のケアが必要な学生の増加、麻疹をはじめとする感染症の拡大など大学の保健管理を取り巻く環境は近年大きく変化しました。福井県立大学ではこういった変化に対応するため、「保健管理センター」を開設しました。まずは、お気軽に保健センターを訪れてください。職員がお話を聞きし、必要に応じて各種相談や医療機関をご紹介します。

## 主な業務 こんなことを行っています。

- 定期健康診断
- 応急処置
- からだとこころの相談…一般相談・健康相談・メンタルヘルス相談・精神保健カウンセリング
- 健康診断証明書発行
- 学内の保健管理

## 利用時間

- 福井キャンパス [毎日]  
9:00～17:00（土日祝日などは休みです）
  - 小浜キャンパス [毎週火・木曜日]  
10:30～14:30
- ※からだとこころの相談は相談日が決まっています。  
お問い合わせ下さい。

福井キャンパスでは談話室を設けています。  
…人恋しい時、行き詰った時などに利用して下さい。

## サークル紹介

### ヨット部

海洋生物資源学科 3年  
堀田 尚宏

ヨット部です。小浜湾を主な活動場所としています。今年度新しく一年生が入ってくれて、福井から小浜までヨットに乗りに来てくれました。部長の私はこれから、ヨットに乗ることよりもヨット部を育てるのに集中していきたいと思っています。

私が入学したときにはすでに部員がいないような状況でした。二年生になり、小浜にやってきてからも、はっきりいってヨットに恵まれた環境とは言えず、ほとんど活動できずにいました。これから、できるだけ多くの、ヨットに乗りたい、乗ってみたい、海が好きといった部員を集めヨット部の活動を活発化していくと考えています。

現在、ヨット自体は一人乗り、二人乗りを合わせて10艇ほどあります。すぐに乗ることができるヨットは1艇です。そのほかには、ウインドサーフィン等もあります。これらはキャンパス(山の上)と、堅海の臨海研究センターに分かれています。乗ることはできませんが、「ソーリング」というオリンピックの最大艇種の日本第一号艇がキャンパスに飾ってあります。

ヨットに乗るために、特別なものは何もいりません。必要なのはある程度の体力と少しのルールを覚えることくらいで、小学生から始められ、足腰が立たなくなるまでできるスポーツです。ライフジャケットを着用しますので泳げる必要もありません。ただ、活動場所の小浜湾はとても穏やかとはいえ、海です。周囲を陸地に囲まれてはいますが、自然の中では何が起きるかわかりません。危険な目に遭うことがあるかもしれません。しかしそれも経験!興味があればどうぞお越しください。



### 硬式野球部

経済学科 4年  
山田 佑介



2009年3月。日本の2連覇で幕を閉じた'09 World Baseball Classic。イチローが打った。松坂が抑えた。岩隈もダルビッシュも村田も青木も中島もみんな頑張った。そんな白球に命をかけた侍JAPANに日本国民誰もが酔いしれた。実は、福井県立大学にも白球を追いかける大学生がいる…。「福井県立大学 硬式野球部」約20名の小さな野球部の選手たちだ。

練習は、火・木・土の週3回。練習時間は短いが、技術以上に大切にしているものがある。それは、「チームワーク」だ。試合で、追い込まれても、負けそうでも笑顔でコミュニケーションを取り合う。それで、幾度となく勝利を収めてきた。勝ったときの選手たちの笑顔は忘れない。でも、負けるときもある。悔しい顔をする選手たち。試合を重ねるごとに、選手たちが成長していく。硬式野球部はそんな場所だ。

野球をすることで、日々、勉強もバイトも遊びも頑張れる。仲間が支えてくれる。共に白球を追いかける約20名の野球部員は、「笑顔」を忘れず、今日もどこかで生きている。

平成6年（1994）経済学部経済学科に高畠英樹君が入学。彼は、車いすで図書館に入るなり「いいぞ、いいぞ」と叫んだ。「やあよろしく、下手な施設よりここは整備されている。これなら後輩がこれる」。手が届かない、係員が本を取り出してほしい。トイレは車椅子が一回転できるか」次々と質問があった。こちらも自信はあった。2階の赤いドアも、うまく作動する。はずだった、しかしカード錠の位置が高く、鍵の位置はケースごとに異なることを知らされた。佐武弘章教授のゼミに入り、「九頭竜川いかだレース」や「白樺祭」の写真が卒業アルバムに残っている。96年の白樺祭は、安室奈美恵とスーパーモンに残っている。

キーズ。2002年「コムサポートプロジェクト」を発足。段差のある歩道で「通れない、押してくれい」と叫ぶ高畠流の「意識改革術」。障害を持つ人の自立をめざして活躍した。彼は、5月13日午後7時45分、福井市内の県道交差点で電動車いすで横断中、車にはねられ不帰の客となった。33歳、悲しい葬儀だった。盲導犬も悲しい声で泣き、頭を垂れている。語りかける焼香の列、一向に進まない。今年の卒業式、彼は笑いながら「やあ元気ですか」。それが最後の声になった。

●「車イスからの宣戦布告」—私がしあわせであるために私は政治的になる— 安積遊歩著、太郎次郎社。

## 本学関係者の出版の紹介

### 21世紀の田舎学

定価 2,100円 杉村和彦 編 世界思想社



ないものねだりではなく、あるもの探しからスタートすること。古民家再生プロジェクト、匠の技を楽しむイベント、グリーンツーリズムなどの豊富な事例を紹介し、遊ぶことを作ることを軸に、新しい「田舎」の可能性とそれを支える「学」を構想します。

### 中国における企業と市場のダイナミクス

定価 2,520円 北島啓嗣 共著 中央大学出版社



中国発展の段階は、単なる生産基地から高度な技術を志向するイノベーションの創出に移りつつあります。本書は、高度化する産業集積や、自生的に発生しその製品分野が福井と競合する温州の企業等にスポットを当てて、現代中国の企業と市場のダイナミクスを分析しています。

### 人とのつながりの中で～障害を超えて福井に生きる～

定価 800円 小林明子 編著

県民双書第8号



本書は、県内の5人の障害のある人の手記と、本学が2001年度から実施している「障害のある人がともに学ぶ地域学習会」の内容をまとめたもので、福井県における障害のある人を取り巻く生活環境や地域ごとのサービス状況などについて紹介しています。

### いいことおしゃてあげる～びせいぶつのひみつ～



定価 1,575円 近藤竜二 編集責任者 リバネス出版

この絵本は、現役の微生物研究者が絵、文、解説の全てを担当しており、幼稚園児から小学生低学年を対象とした、微生物の働きを紹介する初等教育の科学書です。本書の巻末には解説が書かれており、大人が読んでもためになる内容です。

### 東アジアの持株会社

定価 5,250円 下谷政弘 編著 ミネルヴァ書房



近年、日本では持株会社を用いた企業組織の再編、あるいは企業同士の経営統合がさかんとなっています。本書は、日本のほか、韓国、中国、台湾など東アジアでの持株会社の普及・利用状況について実地調査した成果です。

### 文化による都市再生学

定価 2,100円 山崎茂雄 著 アスカ文化出版



産業構造の変化のなかで、疲弊し苦悩する都市や地域に再生の道はあるのでしょうか。本書は、ニューヨークやロンドン、イタリアのピエモンテなど、芸術文化による都市再生に大きな足跡を残している都市を検証し、都市における芸術文化支援のあるべき姿を提示しています。

### 「なぜか健康長寿」を考える —「こころ・からだ・しゃかい」の視点から—

定価 800円 福井県立大学健康長寿研究総括班 編

県民双書第9号



本書は、「なぜか長寿」という福井県の特長を、地域研究的視点からのアプローチによって取り出したもので、健康長寿を促進する諸要因の関係を「こころ・からだ・しゃかい」の三つの視点から、複合的・学際的に取り上げています。

### お知らせ

県立大学では、経営企画部経営企画課内に「地域連携相談窓口」を設置しています。

大学との連携に関する相談などを下記の直通番号で承ります。

**地域連携相談窓口:0776-50-6300**

